

配属先スタッフとの集合写真。出会って一緒に働くことができ、本当によかった。



## 活動の集大成と離任

青年海外協力隊 2018 年度 1 次隊 派遣国：トンガ王国 伊藤有未（三郷市）

年明けからは、引き継ぎや活動の集大成にあたる業務が多くなりました。3月初旬には、農業省幹部が集まる四半期会議にて、着任からの活動の全容を報告。私自身が終始楽しんで発表を進め、真剣に聞き入る参加者の表情からは、何かしらのインパクトを与えたと思えることができました。

前々号でご紹介した巡回も全 15 コミュニティ無事完了。離任というタイム

リミットが迫る中、同僚は全 15 コミュニティの人たちに感謝の意を伝えて巡回を終えたいとの私の想いも理解してくれていました。普段から計画的に動くことが苦手なトンガの人たちですが、こうして必要に応じて火事場の底力を発揮し、最終的に帳尻を合わせて行動に移



配属先での送別会。皆で楽しく美味しい時間を過ごしました。

すスタイルは、トンガのよさであり、特徴。計画に基づいた行動を好む日本に帰れば、このやり方も懐かしい。すっかり任地に恋して帰ることになりました。

任地を離れたのは、3月13日。離任当日、継続してほしい最低限の引き継ぎ項目を同僚に説明しました。私の帰任後もちゃんと自分たちの手で続けていくからとの意思表示をもらった時は、彼らと共に活動してきた時間は決して無駄でなく、非力ながらトンガのために貢献できたのではないかと感じました。

「彼らを信じて、安心して仕事を任せられる。」そんな気持ちにさせてくれた彼らの言動は嬉しかったですし、今後は日本から見守りたいと思います。以前、隊員同士の会話で「任国の人たちが、日本に来ることは金銭的に難しく、自分たちが再び訪れない限り、再会は難しいよね。」との会話を思い出すと、涙が止まりませんでした。SNS社会と言えど、これまでトンガの人たちの温かさを肌で感じながら生活してきたが故に、物理的な距離が離れるのは本当に辛いです。こうして後悔なく任期を全うできたことは、任地の同僚、農業省本局のスタッフ、JICA関係者、同期隊員やトンガ隊員、NCD在外研修時に協力し合った大洋州隊員の皆様のおかげ。この場をお借りして、お礼を申し上げます。



農業省四半期会議での様子。首都本局スタッフもいつも本当によくしてくださいました。